

幕末明治の写真師列伝 第十五回 下岡蓮杖 その十四

「横浜貿易新報」(明治41年6月25日～8月15日)に連載された「開港側面史」(其81～99)の、「在東京、下岡蓮杖翁談」によると、弁天通りの久之助の店は、師岡屋の家作であったという。これについては、斎藤多喜夫「歴史文化ライブラリー175 幕末明治 横浜写真館物語」(吉川弘文館、2004年) p134の「弁天通りの写真館」に詳しく書かれているので、以下はそれを引用する。



「師岡屋とは、弁天通五丁目に店を構えていた錦絵問屋師岡屋伊兵衛のことである。『横浜市史・第二巻』巻末の「横浜町商人録」によると、師岡屋は文久元年5月20日付で小間物・荒物・乾物・絵双紙の営業届を出して借地を得ている。蓮杖は写真撮影のかたわら「東都錦絵」を外国人向に販売していたというから、師岡屋が営業許可を得た「絵双紙」の枠内で、その店子(借家人)として店を出したのであろう。弁天通五丁目にも下田の出身者が多かった。慶応元年(1865)の「横浜本町五丁目人別帳」の弁天通りの部分を見ると、161人のうち31人(約20%)までが下田の出身者で占められている。そのなかには蓮杖の弟子となる阿波屋船田万太夫の名も見える。「下田長屋」と呼ばれる建物もあったくらいだから、蓮杖が店を出すにはふさわしい環境であった。」



富士山マークのスタンプ

さらに最新の斎藤多喜夫先生の研究によれば、当時、弁天通五丁目にあった「横町」のところが、正確な蓮杖の店のある場所であった。このことは沼津市明治史料館所蔵の「渡辺元英像」(下岡蓮杖撮影のガラス湿板写真)が入っていた富士山マークのスタンプ付の蓮杖の袋に、「横浜 弁天通 五丁目 横町 下岡 蓮杖齋」と印刷されていたことから判明した。余談ながら、この渡辺元英は東海道原宿の本陣と共に旗本杉浦家の用人をも勤めていた人物である。

ついでながらこの頃に撮影されたその他のガラス湿板写真としては、以下の物がある。

「木村政信像」(東京都写真美術館所蔵) 文久2年5月撮影。

「若き下岡蓮杖像」(板部正雄氏所蔵) 文久2年撮影。

「蓮杖の妻・美津の兄・板部英次郎像」(板部正雄氏所蔵) 撮影時期不明。

「赤井重遠像」(森田写真事務所所蔵) 文久3年10月撮影。

「山本謙兵衛像」(故但馬惟義氏所蔵) 撮影時期不明。

「吉田庸徳像」(行田市郷土博物館所蔵) 慶応4年8月8日撮影。

「吉田庸徳像(アップ)」(行田市郷土博物館所蔵) 慶応4年8月8日撮影。

「本山漸像」(本山漸二氏所蔵) 明治2年撮影。

「長谷部友次郎像」(長谷部三郎氏所蔵) 明治2年3月20日横浜南仲通五丁目にて撮影。

これ以外にも蓮杖撮影のガラス湿板写真は、もう1点見つかったので、現在のところ10点が確認されているが、今後も見つかる可能性が高いだろう。

(森重和雄)